

經濟時評及商況

◎關稅は往々産業發達を遲緩ならしむる虞あり

小島 精一

(一) 關稅論の二つの前提——就中關稅は産業を速に發育せしむると云ふ事

本邦製鐵業の救濟策否振興策として關稅引上げの必要があると言ふ議論は各學會、及調査會等の齊しく認める處である。其主張の根據は必ずしも明言されて居らぬが、大體所謂幼稚産業保育論に類するやうである。即ち、本邦製鐵業は將來大いに發展する見込みあるにも拘らず創業日尙ほ淺きため現在にては先進國と對等の競争を行ふ事は出來ない、夫れ故當分一定の保護をして速に此重要産業を確立せしむべきであると言ふ論旨の様に思はれる。

處で此議論の適否を論ずるには凡そ次の二つの前提を吟味する必要があると思ふ。

- 一、製鐵業は將來發達する見込みあること
- 二、關稅保護は速に此發達を招來すること

輿論を聞くに、右の第一要件に就いては往々論議が行はれる様であるが第二點に就いては全く當然自明の事であるが如くに看過され來つた様である。余は之を以て左様に自明な事柄とは考へぬから、次に少しく其所以を論じて注意を促し度

ひと思ふ。

(一) 關稅は産業進化を遅らしめたる實例あり

理窟は後にして先づ實例を示さふ。米國の製鐵業は普通には關稅保護の成功した適例とされて居るが、少し詳細に觀察すると種々の重大な缺陷があり、功罪何れが多きか俄に斷じ難き感がある。同國の鐵關稅は一八一六年を轉期として引上げられ爾來約二〇年間各種鐵材は大體四割乃至十割の重關稅を課せられた。其後一時低下して四二年には約二割に下つた。余が問題とするは此二〇年の重關稅期が新製鐵法の採用を遅らしめたと云ふ事實である。骸炭製鐵法は英國に於ては此半世紀も前に採用されて居たにも拘らず、米國に始めて無煙炭製鐵法が行はれたのは實に四〇年代であつた。而も此重關稅は甚だ好況期にて、英國品は續々輸入されたのであるが、内地生産者は關稅の人為的保障の庇護に隠れて、原始的木炭法を株守して居た。四二年關稅が低下してから始めて生産費改善の急務に面し、新製法が次第に普及したと言はれる。固より、骸炭製法の發達が遷延した原因を關稅保護のみに屬する事は不當であるが、關稅が原始法の殘存する余地を與へた事は疑ふべくもない。

(二) 關稅從にして企業心主たる事

抑も關稅は價格を人為的に釣上げ内國生産者をして新方法を採用する機會を與へんとするものである。夫れ故生産者が向上敢爲の企業心に満ちて居る場合には始めて太過なく其目的を達成し得るのであるが、不幸にして企業心萎靡せる場合には姑息な保守的方法を其儘殘存せしめ、新方法の普及を緩慢ならしむる虞れがある。斯うなると關稅は國民の費用を以

て、故意に劣等生産者（又は劣等生産方法）を擁護する結果となるので甚だ戒心すべきである。本邦製鐵業は今や新組織新設備を採用すべき重大なる改造期に面して居る。關稅の保護は其進行を圓滑ならしむる所以であるとも言へるが、又見様によつては萎靡せる現狀を其儘停滯せしむる虞れがないでもない。效過の別れるは關稅制度其者ではなくして、關稅治下にある生産者の企業心如何である。

斯くの如きは固より昭々として明白なる事柄であるが故に、或は全く看過され來つた感がある。夫れ故特に大方の注意を喚起せんと欲するのである。

疑ふらくは關稅論者たる本邦製鐵業者の幾何か、斯る旺盛なる企業心を持ち合はせて居るであらふか。（八月三日稿）

◎鐵材の前途

前年末から今年の初めにかけて所謂免稅期間中に於ける鐵材見越輸入は莫大なるものであつた、バーのみならず薄板、亞鉛引平板、釘、針金等建築用金物のそれに就いても同様のことであつたが其後一般景氣の悪化と共に需要は著しく不振となり金融は極度に困難の状態となつた爲め上半期中の鐵材は鉞力板、薄板、平板釘、針金等と軌を一にして慘憺たる市況を現出した加ふるに内地からの引合杜絶と先方自體の事情も加はつて産地市況が一時崩落の機に會したから内地市況に及ぼした影響も可成多大なものであつた、概して言へば右の如くして上半期中の鐵材界は最悪の市況であつたと言へるが扱て下期當初の觀測として、（一）三月以降爲替關係の不利と内地の在荷過多及び需要不振に依つて新規の註文が出て居ないこと、（二）或るサイズの品については既に品薄の現狀にあり且つ目先品薄を氣構へて居るから一般的に在荷過多と言はれて居るが特定サイズの品薄に依つて過多な在荷が調節されること、（三）一般景氣も現狀以下に悪化すると思はれぬこと。右等の理由に依つて稍先行見込に樂觀的氣分が漂うて居た而して六月以降今日迄の推移を見るに右の觀測を裏書する程の程度には及んで居ないが市價維持策金融の便法として案出された例の鐵商シンジケートの組成は幾分其の機能を現はし

て居る所以か且つ又不況半歳の久しきに涉つて居り何等か變化を求むる人心自然の發露が過般來より市況に幾分蘇生氣味を加へて居た様である加ふるに當今に至てはフランの昂騰と共に産地（主として歐大陸）氣配は著しく回復したかの模様があり従て内地相場も地場百六七圓見當を唱へらるゝに至つて居る斯く觀じ來つて前途の推移如何を判するに先づ内地事情としては、（一）三月以降今日迄新規の注文は極めて少いと共に或るサイズのものは品薄の現狀を呈してゐること、（二）バーの見越輸入は莫大であつて需要は不振であると言はれて居るが内地平時の需要狀態から言へば過剩と見られた輸入は約四箇月分の數量に過ぎなかつたと、（三）秋季の需要は可成期待されて居ることである。そして海外主として歐大陸では、（四）佛、白、獨の製造家は生産原價を切つて販賣して居たから相場としては現在以上に低落すると思へぬこと、（五）フランの昂騰と共に佛蘭西品が爲替關係から自然高値となること、（六）倫敦會議の成功は鐵材界に對する刺戟も相當であらうと信ぜられて居ること。

内外事情が以上の如くであるから内地市況が現在猶ほ在荷過多の咎を受けて居ても前途は大して悲觀するの要はあるまい。

◎英國商況

（八月一日在倫敦松山商務官來電）

産業界一般に不振内外の需要減退に商品市價下押、經濟界各方面沈靜、倫敦會議は何かの成果を齎らすべく望を以て繼續せられつつある、金融は市場資金薄、納稅期等に引繼き強調、賠償會議に伴ふ獨逸公債見越に先高氣配、株式一般に軟調、新發行ものも亦氣乘薄、爲替は磅依然高張、對米は紐育の金利安に大陸方面の弗賣逃げも加はり軟調、圓はクロス高に安含み。

石炭は内地需要活氣無く歐大陸方面買氣薄に市價下押。

銑鐵引續き沈靜先安氣配に商談手控へ、輸出は歐大陸初め需要減に不味、此處當分回復見込立たず、七月中の輸出更に減退せり、鋼鐵類も亦不振、市價保合なるも内外の引合杜絶工場商人共に無爲。

鉞力は最近原料錫高値に手硬く内地輸出共に買氣相當、歐大陸東洋方面の引合優勢、南米方面は内亂の爲め商談無し、黑板は大體變り無く市價保合、日本よりの引合ポツポツ、亞鉛板厚物は小口商談相當、印度濠洲向優勢薄物一般に閑散なるも市價保合。

